

日 時：平成 28 年 9 月 22 日（木・祝） 13:00～15:00

出 前 先：香芝市真美ヶ丘自治会館

受 講 者：香芝市真美ヶ丘にお住いの方々

講 師：菅野耕三先生（大阪教育大学名誉教授）

授業題目：「真美ヶ丘の地盤と自然災害 ～備えましょう～」

香芝市真美ヶ丘自治会より、「自然災害・防災」に関する知識習得と意識高揚を目的として、大阪教育大学名誉教授の菅野耕三先生を講師とした講演依頼があったことを受けて、防災セミナー「真美ヶ丘の地盤と自然災害」と題しての出前授業を開催いたしました。受講者は、真美ヶ丘にお住いの住民のみならず、約 80 名の方々が聴講されました。

講演では、まず冒頭で地盤工学会関西支部広報企画委員会の活動内容のご説明をいただき、その一つとして今回、出前授業として講演を実施している旨のご紹介をいただきました。

本題の地盤災害については、兵庫県南部地震をはじめとした地震災害の説明を皮切りに、御嶽山噴火等の火山災害、台風による豪雨災害等について、順を追って説明を頂きました。

地震災害については、地震に関する基礎知識として、海溝型地震と内陸の活断層に起因する直下型地震、地震波の P 波と S 波の到達時間差からの震源の推定方法などについて分かり易く説明されました。また、大きな確率で発生が予想される南海・東南海地震について、想定される被害の発生可能性と、地震が発生した際取るべき行動についても説明頂き、兵庫県北淡町や長野県白馬村での地域付き合いの好事例の紹介を交えながら、地震への地域としての「備え」の重要性についても説明がなされました。

また豪雨災害については、直近の台風 10 号による岩手県の老人ホームでの被害を踏まえ、改めて自助の重要性を指摘されました。豪雨時におけるアンダーパスやマンホールの危険性について指摘され、道路に水が溢れている場合には非難が危険であることを強調されました。

最後に、香芝市とその周辺地域の地盤の成り立ち、地質構造などを説明いただき、特に南海・東南海地震による地震災害への備えの重要性を指摘されました。そして先生は、3 つの教訓として「油断大敵」「用意周到」「自立連携」を掲げ、正しい防災知識に基づき、命を守るために自らが判断し、第一に自助の意識をもって行動することが最も重要であることを強調され講演を締めくくられました。講演終了後も参加された皆様から熱心な質問が続き、防災意識の高さが伺えました。

文責：八木 博嗣（阪神高速道路株）

